

先の第6章にひきつづき、**ChatGPT のクリエイティブ最前線**を見てみましょう。第6章のお題は「ゲノム編集」でしたが、今回のお題は何にしましょうか……。

2021年2月に実施された名古屋市立大学の入試問題に、こんな出題がありました。

Read the topic carefully. Write your answer in English in 120 – 150 words.

Cyberbullying* is not as bad as the traditional bullying that takes place in schools or workplaces!

Do you agree or disagree with this statement? Please give clear reasons for your opinion.

*注 Cyberbullying : ネットいじめ

(論題をよく読み、あなたの答えを120～150語の英語で書きなさい。

ネットいじめは、学校や職場で起きる昔ながらのいじめに比べればましだ！

この言い分にあなたは賛成か、反対か。あなたの意見には、はっきりとした理由づけを2つ以上記すこと)

「ネットいじめは、昔からあるいじめに比べれば、まだ、ましだ」という **statement** に対して、**positive/affirmative/supportive** な意見を述べるか、**negative/dissenting/opposing** な意見を述べ

るか、それを決めるのは人間ですよ。その最初の舵取りをしっかりおこなってプロンプトを作れば、ChatGPT の模範解答は即座に得ることができます。

本書にここまでお付き合いくださった皆さん、そのやり方はもうご存知でしょう。ご興味のあるかたは、ぜひプロンプトを作って ChatGPT に作文をお願いしてみてください。受験生の諸君は、前もって自作の英文も作って、ChatGPT 先生の模範作と比べてみてください。

既存の英英辞典にはどう書いてあるか

「cyberナントカ」という表現は、cyberspace とか cybersecurity のような単語を通じて、コンピューター関連を意味するものとしておなじみではないでしょうか。これが **bully** (いじめっ子、がき大将) という名詞に接頭辞として乗ったのが **cyberbully** (ネットいじめをする者) です。この名詞をその語形のまま **cyberbully** (ネットいじめをする) と動詞化し、さらにその名詞形として動名詞語尾の **-ing** を付加したのが **cyberbullying** (ネットいじめ) という単語になります。

英英辞典を見ると、以下のような語釈・用例があります。

cyberbully: a person who uses messages on social media, emails, text messages, etc. to frighten or upset somebody (Oxford)